今の憲法を変えてしまっていいのでしょうか？

―ごいっしょに憲法を守りましょう―

日本国憲法は

平和で幸福な社会への道しるべ

「二度とあってはならないこと」

加藤 豊栄さん、勝屋、農業　70歳

「昭和 19 年の暮れ、父親に 3 回目の召集令状が来た。父は小学校 4 年生の私を頭に乳飲み子まで男の子 5 人の子どもを抱えた、山村農家の大黒柱だった。

翌春からの作付けや炭焼き、焚き物とりなど、一切の差し繰りをあわただしくして、母親に後を頼んで入営していった。

表向きは喜ばしいことだと、村の人の万歳に送られていったが、私は最後まで見送ることができなかった。二回目の時は何もわからなかったが、このときには父が何をしに行くのかわかって、とても耐え難かったことを覚えている。

ああいうことは二度とあってはならないと、そのときからずっと思っています。」

「たくさんの同級生を失って」

村山 富太郎さん、安田上学校町、86 歳

「私は満州開拓に参加し、ソ連軍と戦った経験がありますし、戦争でたくさんの同級生を失いました。時の為政者リーダーによって、ゆがめられた正義感に走ったわが国は、アジアで二千万人、日本で三百万人の非風惨雨の犠牲者を生み出しました。憲法九条は日本の宝、世界の宝です。断固守りましょう。」

みんなの声

戦争の反省から生まれた今の憲法
若者を再び戦場へ送らない

若ものの声

「一字一句このままで」

現在十九歳の青年（阿賀野市内）

少年の主張」大会最優秀賞より

中学三年生になって始まった公民の授業で、戦争が終わって二年後に施行された日本国憲法について勉強しました。

その憲法の中の第九条に戦争の放棄というのがあります。戦争の放棄、つまり戦争は一切しないことと戦力及び交戦権の否認というのが第九条の内容ですが、これは世界で類を見ないということを授業で学びました。世界で類を見ないということは、世界の各国は戦争を放棄していないのかなと、不安になります。

最近は、憲法九条の改正というニュースも報道されていて、また戦争になっちゃうのかな、と心配しています。

憲法九条の戦争放棄、ぜひこれだけは、このまま一字一句変わらずこのままであってほしい。授業を受けて一番強く感じたことでした。」

「九条改悪は徴兵制への道」

早川 正さん、日の出町、81歳

「千葉県市川市の東部軍に志願入隊。上官に対して絶対服従という非人間的な軍隊生活に苦しめられた。志願兵の募集は、新聞、ラジオ、隣組、学校教育など総動員で進められ、若者に志願せざるを得ない状況が作り上げられていた。

九条の改悪は必ず徴兵制につながり、若者をむごたらしい戦場に送り出すことになる。」

「戦争は悲惨なものです」

津田 文治さん、駒林 元京ヶ瀬村議会議長

「私は昭和十五年現役兵として入隊、十九年に泰緬鉄道や自動車道路の補修工事に従事しました。戦争は戦闘で死傷するよりも、病気や飢えで亡くなる人が多いという悲惨なものでした。

私のように階級の低い兵士が、上官の命令で行動したことも戦犯ということで多くの兵が処刑されました。

今、こうして生きているのが不思議なくらいです。こんなむごいことを、子や孫には絶対体験させられません。」（談）

「九条を守る阿賀野の会」

ホームページ　http://www.iplus.jp/~9jo-agano/　　Eメール　9jo-agano@iplus.jp